

Bionic Jack Racing FIA-F4 レースレポート



【FIA-F4 選手権シリーズ第 11 戦・第 12 戦】

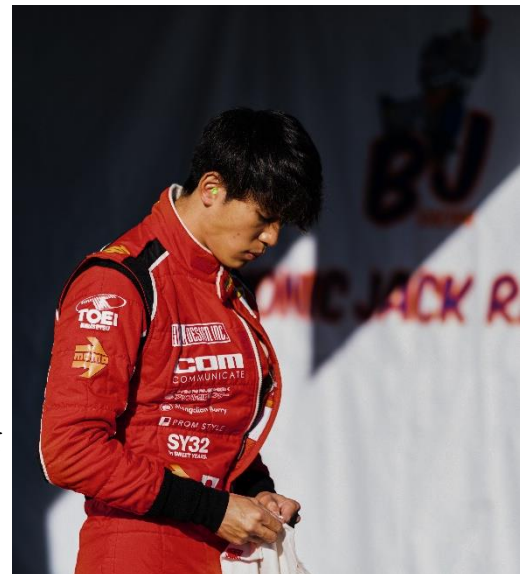
ツインリンクもてぎ（栃木県：4.801km）

11月6日（土）予選、決勝レース第11戦

11月7日（日）決勝レース第12戦

#97 岩澤 優吾 BJ Racing スカラシップ

2か月ぶりに臨んだレース、長いインターバルも味方につけて第11戦は無念のリタイアも、第12戦で自己最上位となる5位を獲得する。



今年で7シーズン目を迎え、その歴史の中で数多くのドライバーを鍛え、上級カテゴリーへ送り出していったFIA-F4選手権シリーズに、高木真一監督が指揮を執る、Bionic Jack Racingは臨んでいく。

これまでは2名のドライバーを走らせていたが、今回は「#97 BJ Racing スカラシップ」を駆る、岩澤優吾に勢力を集中。1名のみでの参戦となる。

メインイベントであるスーパーGTは第7戦ながら、前回のオートポリスではFIA-F4は開催されなかったため、岩澤にとってほぼ2か月ぶりのレースとなる。もちろん長いインターバルには、今大会の舞台であるツインリンクもてぎで2回、最終大会が行われる富士スピードウェイでも1回テストを実施。しっかりマイレージを稼いでいた。

その成果は、木曜日に行われた特別スポーツ走行に表れ、トップからコンマ2秒差となる、1分58秒150をベストタイムとして5番手につけていたからだ。

金曜日のダンロップトレーニングは予選をにらみ木曜日からセットを変更、2セットのニュータイヤを入れ、OTGトレーニングはレースを想定のロングでレースウィーク通してのパフォーマンスアップを狙った。

◆予選

#97 岩澤 優吾 BJ Racing スカラシップ：第11戦・8番手／第12戦・8番手

もう11月ということで凍えるような思いも覚悟したが、実際には意外や意外、土曜日のツインリンクもてぎは、秋晴れの陽気にも恵まれることとなった。それでも予選では、ウォームアップを重視して、岩澤は計測4周目からアタックを開始する。その時点で7番手となる1分58秒874をマークし、そのままタイムを短縮していくことが期待されたが、直後にコースアウトした車両があり、赤旗中断に。延長はなく、残り時間12分で計測は再開される。すでに熱の入ったタイヤということで、岩澤は2周後にはコースを攻め込んでいき、まずは1分58秒740にまで短縮を果たす。次の周には1分58秒186をマークして、これがセカンドベストタイムとなり、さらに3周後のラストアタックで記した1分58秒002がベストタイムに。

赤旗中断したことにより中々クリアラップが取れず途中無理して前車を抜く時、若干フロントタイヤをロックさせたことによるフラットスポットの影響で、振動とブレーキングパフォーマンス低下から、岩澤はベスト・セカンドベストとも、8番手に。

岩澤のパフォーマンス的には5番手以上を狙っていただけに悔やまれる予選になった。

岩澤優吾

「再開後に、もっとベスト出ていた時があったんですけど、90度コーナーで感覚よりブレーキングで詰めすぎて、飛び出しているんです。そこをちゃんとつなげられていたら、もうちょっとタイム出たはずなので、そこは反省したいと思います。2レースとも8番手から、順位を上げていきたいです。レースではもうちょっとペースを上げられると思うので、そろそろ表彰台上らないといけないので、さすがに。頑張ります」



◆決勝レース第11戦

#97 岩澤 優吾 BJ Racing スカラシップ：リタイア



決勝レース第11戦は土曜日に行われ、引き続き穏やかなコンディションでの戦いとなった。フォーメーションラップを終えて全車グリッドに整列した直後に、スタートディレイの提示が。エンジンが止まってしまった車両が中団にあったため。フォーメーションラップはやり直され、レースは1周減算の12周で競われることとなった。

スタートを無難に決めて、ポジションキープの8番手からレースを開始した岩澤は、さっそく前を行くドライバーをかわそうとプレッシャーをかけていく。もてぎは抜きどころが少ないから、ミスさせることが最大のオーバーテイクチャンスとなるからだ。そして4周目の3コーナーで最初の仕掛けに出るも、ここでの逆転はならず。

その直後に5コーナーでコースアウトした車両があり、セーフティカーが導入されるも先導は1周のみで、すぐにレースは仕切り直される。なおも後ろから揺さぶりをかけていく岩澤。立ち上がりの加速に優れる岩澤は9周目の5コーナーで前車の加速が鈍ったのを捕まえ前に出る。そのままの勢いで更に前車と並ぶように130Rに進入するも接触し、絡み合ったままコースアウトしてしまう。ダメージを負ったマシンは再始動ならず、無念のリタイアとなった。



岩澤優吾

「スタートはまずまずで、ポジション変動なかったんですけど、前を抜くの
に時間がかかっちゃって。セーフティ
カーの後にブレーキミスしたようで、
前に出られたんですが、その直後の
130R で並んだ車両が見ていなかった
のか、ぶつかっちゃって。すごいバトル
していて、みんな団子になっていた
んで、ちゃんと見ていてくれて普通に
立ち上がっていけたら、その後に全然
チャンスがあったと思います。残念といか、言葉がないですね」



◆決勝レース第 12 戦

#97 岩澤 優吾 BJ Racing スカラシップ：5 位

ダメージを負ったマシンは、スタッフの手によって完璧に修復されて、臨むこととなった決勝レース第 12 戦。日曜日のもてぎも天候に恵まれて、まさに絶好のレース日和となっていた。

またもまずまずのスタートで、岩澤はポジションキープの 8 番手からレースを開始。だが、130R でランキングトップを争い合う 2 台が絡んでコースアウト、自動的に 6 番手に浮上することとなる。

前に行くのは第 11 戦でも追い回したドライバー、無理な仕掛けはせずに、まずはプレッシャーをかけてミスを待つこととする。これが正解で、3 周目の 5 コーナーで相手はオーバーラン。ひとつ順位を上げるとともに、3 台での 3 番手争いを繰り広げるようになる。このあたりに来ると、それぞれのバトルはクリーンで見ごたえも十分。むしろ仕掛けて抜き損なうと、自分が不利になることも理解していたから、しばらくじっと我慢。だが、岩澤にチャンスは訪れなかった。最後までピリピリするような神経戦が続きそのままの順位でチェッカー。

終盤はタイヤが厳しくなったが、それでも後続は大きく引き離していたことから、自己ベストとなる 5 位でゴール。その結果、ランキングも 11 位となり、トップ 10 入りが確実に見えてきた。残すは最終大会の富士のみ。3 週間後の 11 月 27～28 日に、集大成となる走りを見せてくれることが期待される。





岩澤優吾

「今日もスタートはそんな悪くなくて、ポジションキープでレースを進めていったんですが、前で2台が飛んでいって。その後のペースも悪くなかったので、まずは無理せずついていってミラーを見せ、プレッシャーかけ続けたことで、5コーナーでブレーキングミスしてオーバーランしてしまいました。その後は3台で3番手争いをやって、序盤のタイヤのあるときはペースもよく、ちょっとずつ詰めていけたんですけど、中盤からはリヤタイヤがきつくなって。ちょっとずつ離されてしまいました。もてぎは自信あったんですけどね、昔から。でも、マシンも1年通し自分のフィーリングと車の動きを深いところまで理解でき、今までより更にチームにフィードバック出来るようになって、セットがかなり進みました。その辺もあってチームとのコミュニケーションも更に良くなり、長所短所もかなり理解出来てきているので、最後の富士ではここまで来たら表彰台に乗れるようにしたいので、しっかり準備していきたいと思います」

